

アングロ・ノルマン文学素描

— A Brief Survey of Anglo-Norman Literature —

With a Select Bibliography

福 井 秀 加

ウィリアム征服王がイングランドに渡った1066年より前に、当地の上流社会にはフランスの風俗と言語とがかなり広まっていたのであるが、ウィリアムに続いて主に、ノルマンディ地方の人々が多数イングランドに定着してから、彼等とその子孫達は数世紀の間、イングランドの言語と文化とに著しい影響を与えることになった。この人達の作り出した文学がアングロ・ノルマン文学と呼ばれる。彼等以外にも土着のイギリス人や大陸のフランス人、ノルマン人もこの文学の担い手となった。

この言語と文学が人びとの興味を引いたのは18世紀後半に遡る。しかしその研究は1939年に至っても「細部をつみ重ねて総合することが可能になったにすぎない……しかもそれは、まだ決定的な研究となり得ていない」のであった。¹⁾ 1963年にオックスフォードから *Anglo-Norman Literature and its Background* を刊行された Legge 教授は、今でもこの分野の研究が不十分であることに言及されている。²⁾ アングロ・ノルマン文学の研究を取上げるにあたって、私は Paul Studer の Oxford, Taylorian Professor of the Romance Languages 教授就任演説「アングロ・ノルマンの研究」(1920年2月)³⁾ に非常な示唆を受けたことを前置きとして、まずアングロ・ノルマン文学の諸特徴を述べたいと思う。

1920年代、30年代にはアングロ・ノルマン語、文学についての貴重な研究が発表された。Studer 教授に続いて、この時代になされたいくつかの研究書を次にあげておこう。

in 1923 : Johan Vising, *Anglo-Norman Language and Literature*, London.

in 1924 : O. H. Prior edited the first volume of Cambridge Anglo-Norman Texts : *Divisiones Mundi*, for the Cambridge Anglo-Norman Text Society.

in 1934 : M.K. Pope, *From Latin to Modern French with Especial Consideration of Anglo-Norman*, Manchester.

in 1936 : E. Walberg, *Quelques Aspects de la Littérature anglo-normande*, Paris.

in 1938 : C.B. West, *Courtoisie in Anglo-Norman Literature*, Oxford.

in 1938 : Anglo-Norman Text Society first published *La petite philosophie*, ed. W.H. Trethewey, Oxford.

本文のおわりには Select Bibliography を付けた。これによってアングロ・ノルマンの文学作品とその研究の現状がうかがわれると考える。

* * * * *

912年にノルマン人はフランク王からノルマンディ地方を譲与され、それを領有してノルマンディ公国を建設した。彼等は10世紀初頭から11世紀にかけて巧妙な政治手腕をもって其の地に強力な政体をつくり上げ、BecやCaenにはパリに先駆ける優れた学問所を作った。そこでは高い文化水準が保持されていたという。当時のノルマン人は実際的な人びとであり、強い好奇心をもち、真面目な宗教心を抱いていたようである。彼等は11世紀になってもまだ先祖の冒険心を失なわなかったらしく、巡礼や商人や兵士となり、或いはこの三者一体となった集団でフランスやイスパニアの諸地方にはいり込み、地中海の諸港に出入りした。ウィリアム征服王がイングランドを掌握している間に、この集団は南イタリアにおよび、其の地に強力な王国を建設した。ノルマン人がこのように急速に作りあげた勢力は制海権に立脚したものであったといえる。

海洋雄飛を好むノルマン人の嗜好を裏書きするかのように、海の冒険物語の「聖ブレンダヌスの航海」⁴⁾がイングランドに居を定めたノルマン人によっていちはやくラテン語からアングロ・ノルマン語に翻訳されている。これは当時大層人気のあったものらしく、120余のラテン語による *Navigatio Sancti Brandani* が現在残っている。西方の大海の中にある不思議な魔法の島々へ旅をし、地獄と天国とをかいま見る聖Brandanとその17人の弟子の遍歴の物語である。彼等は神に反逆した天使達の中で罪の軽いものたちだけが白い鳥になって住んでいる鳥の島を訪れたり、地獄の炎からひとときを逃れて、大海の真ただ中の岩に坐り、荒波に打たれながら贖罪をしている、骨と皮ばかりのユダに遭遇したりする。現存する最古のアングロ・ノルマン語の写本⁵⁾によって伝えられているこの作品は、最近の研究によると、ヘンリー一世の最初の後Maudに捧げられたもののようである⁶⁾。「聖ブランダン」の作者のBenedeitとほぼ同じ時にPhilippe de Thaünが1119年頃「暦法」⁷⁾をあらわした。ついで彼は博物学に関する手引書ともいうべき *Physiologus* を翻訳して「動物誌」*Bestiaire*⁸⁾を書いた。アングロ・サクソン語の *Physiologus* はイングランドに存在していたが、これはフランス語の中では一番古い「動物誌」(1121—1135)である。*Bestiaire*は実在と架空の動物をとりまぜて動物たちの習性をえがき、それらを比喩的な象徴であらわしている。例えばペリカンは胸を引裂いて血を与え、我が子の生命を救うといわれ、キリストになぞらえてある。Philippe de Thaünは *Lapidaire*「宝石誌」も書いた。最も古い *Lapidaire* もアングロ・ノルマンのものが残っていた。⁹⁾このような作品が他の様式より早く現われたことはアングロ・ノルマン文学の性格の一端、すなわち早熟性 *Precocity*¹⁰⁾を示していると言ってもよいであろう。

歴史と年代記も又この文学の中で重要な位置を占める。フランス本土ではFroissartの出現までは王家の年代記ないし編年史が殆んどラテン語で作成されていたが、イングランドでは多くの韻文のアングロ・ノルマン語による年代記が作られた。Geoffrey Gaimarはブリトン人の歴史物語を書き、それに続いて *L'Estorie des Engles* (1147—1151)¹¹⁾を *Saxon Chronicle* を典拠に用いて作り上げた。Jersey島に生まれCaenに住んだ学僧WaceもGeoffrey of Monmouthのラテン語の *Historia Regum Britanniae* (ca. 1136)「ブリテン列王史」¹²⁾を翻案して、*Le Roman de Brut* (1155)¹³⁾を世に出した。Geoffreyの *Historia* に同じく、彼はブリテン王国の建国伝説の王Brutusの曾祖父Eneasがトロイを逃れる所から物語を始めて、ブルータスとブリトン人がAlbionに定住する話におよび、ブリトン最後の王Cadwalader (689A.D)が国を離れ、かわってサクソン王Athelstanがイングランドの王となりCadwaladerの子孫たちが後にウェール

ズに戻って落着く所で叙述を終えている。これには事実と架空の物語がいり混っているけれども、出来る限り読者に信憑性のある知識を与えようとする意図がある。ワースはそれをヘンリー二世の後 *Eléonore* に献じた。この「ブリュ物語」は詩人としてのワースの優れた技量を示しており、この分野の傑作である。ジェフリーによって紹介され、ワースに導かれてアーサー王と円卓の騎士は、その後の文学の広い舞台に登場することになる。ワースはノルマンディ公歴代の物語 *Roman de Rou* (1160—1174)¹¹⁾ にも着手したが、それは完成せずに終えた。彼と同時代にありヘンリー二世の寵愛を受けた *Benoit de Sainte-Maure* は *Chronique des Ducs de Normandie*¹⁵⁾ を書き、ノルマンディ公の年代記をヘンリー一世の時代まで叙述した。ヘンリー二世とその息子たちとの当時の争いの歴史は *Jordan Fantosme* の *Chronicle* に残っている。¹⁶⁾

文学史上アングロ・ノルマン時代はヘンリー一世の時代に始まるとされているが¹⁷⁾、その後、ヘンリー二世と *Eléonore d'Aquitaine* 妃との官廷には各地から学者や詩人や騎士が集まった。ヘンリー二世の領地はスコットランドからピレネまで拡がり、西ヨーロッパに勢力を誇示していた。プロヴァンス文学の詩人 *Bernard de Ventador* (1148—95) もエレオノール王妃の官廷に関係があったといわれる。このヘンリー二世の官廷は英国の歴史に重要な意味をもたらすことになるのである。当時 *British Isles* はスカンディナヴィア諸国と共にヨーロッパ文化圏のいわば外縁に位置していたから、大陸との交渉が断絶すれば歴史の潮流の動きからとり残される危険を含んでいた。イングランドはノルマンディとの交流を通じてこの断絶をまぬがれ、中世全期にわたって地中海文明との交渉を維持するようになった。ヘンリー二世以後プランタジネット朝宮廷の果たした役割は歴史的にも文学的にも高く評価されなければならない。冒険心と投機心とに溢れ、巧みな外交手腕や実務能力を具え、優れた文学、美術観を持ち合わせていたノルマン人が、沈滞したイングランドの主に知的な面に貢献したということは見逃してはならない。

フランス文学の叙事詩の傑作 *La Chanson de Roland*¹⁸⁾ や *Le Pèlerinage de Charlemagne*¹⁹⁾ にはアングロ・ノルマン語の写本が残っている。この両作品がアングロ・ノルマン語で保存されており、更にイングランドの地で模倣されて中世英語の作品となり *Roland and Vernagu*²⁰⁾ や *Song of Roland*²¹⁾ や *Lyf of Charles the Grete*²²⁾ としてこの地に広まったことは興味深い。

アングロ・ノルマン文学ないし文明が持っていた真の価値は、互いに離れて存在していた二つの国、イングランドとフランスとの間に人種的障害を越えて、活発な知的交流を行なったことにある。この文明の特徴は‘Cosmopolitanism’にあるといえよう。*King Horn*²³⁾, *Havelock the Dane*²⁴⁾, *Richard Coeur de Lion*²⁵⁾, *Fouke Fitz Warin*²⁶⁾, や *King Dermot*²⁷⁾ が新しい型の叙事詩の主人公になった。此等の叙事詩には *La Chanson de Roland* におけるような戦う戦士たちの荒々しい雰囲気が和らげられている。これらは既にでき上った貴族社会のなかで、平和的な安定した雰囲気を持って生まれてきた。つまりそれらはロマンスの騎士道物語や冒険物語となった。イングランドに落着いたノルマン人の子孫はこのような社会的、文学的条件のもとで、12世紀にはかつての敵であったアングロ・サクソンの事蹟をもほめたたえ始めた。*Gui de Warewic*²⁸⁾, *Bueve de Hantone*²⁹⁾ は *Roland* や *Olivier* と同様に著名な英雄になった。物語はまずアングロ・ノルマン語で書かれた後、中世英語のロマンスになって残った。

この他アングロ・ノルマン人はイングランドを古典古代の文明に再び接触させる役割を

も果した。フランス文学で古代物とよばれる一群の作品、トロイの話³⁰⁾やテーベの話³¹⁾アレクサンダー大王の物語³²⁾等がイングランドに伝わり此等はまた其の後中世英語の文学作品の主題にとり入れられて流布された。このことはカロリング・ルネッサンスの波をアングロ・ノルマン文学がイングランドの岸边にもたらしたことを意味するであろう。

フランク王の所有する北フランスを侵略し、略奪をほしいままにしていた頃のノルマン人は、慍慍で好戦的であり、10世紀以前にはノルマンディ地方を徹底的に荒らしたのだったが、ノルマンディに公国をうち建ててからは敬虔で熱心なキリスト教信者となり、教会の保護者となった。イングランドに渡ったこのヴァイキングの子孫も宗教に非常な関心を示したのである。Ely, Canterbury, York, Durham などに居住していたノルマン人の建築家がたてた石碑に宗教詩がぎざまれている。これは彼等の宗教的作品の最初のものであろう。彼等はノルマン様式の修院や教会を僧侶や学僧のために建立した。そして僧侶や学僧の宗教的知識の分け前にあづかろうと熱心であった。聖書の物語の *Li Quatre Livres des Reis*³³⁾ がアングロ・ノルマン語で書かれた。現存する5写本のうち最古のものがアングロ・ノルマン語である。其の他「詩篇」³⁴⁾ や「黙示録」³⁵⁾ も又この言葉で書かれている。アングロ・ノルマン文学作品とされているもののうちでは聖者伝や説教や教訓物語は極めて多く重要な部分を占めている。³⁶⁾ フランス文学史上最古の聖者伝である *La Vie de St. Alexis*³⁷⁾ にも、また最も古い劇作品である *Le Mystère d'Adam*³⁸⁾ にもアングロ・ノルマン語の特徴がみられる。

アングロ・ノルマン文学という立場からアングロ・ノルマン人の果たした最大の功績を指摘するならば、それは彼等がケルト的素材—ブリタニアの素材 *Matière de Bretagne* を西ヨーロッパに広めたことにある。ケルト人とサクソン人とは何世紀もの間、敵として或いは平和な隣人として共存してきたが、サクソン人はケルトの文学的素材をイングランドの地ではみのらせることができなかった。ノルマン人がイングランドに定着するや、持罇の強い好奇心によってでもあろうか、このケルトの素材、空想と驚異の物語が文学的創造の源となり始めた。目に見えぬ客の住む館、人間の愛を求める妖精、魔法の剣、魔法使や、トリスタンとイゾーが示す不可思議な情熱や、アーサーと円卓の騎士の話などが新しい文学を生み出して行った。³⁹⁾ このようなケルトの素材をあつかった物語はウェールズ語やアイルランド語によっては文学的成功を獲得し得なかったであろうが、アングロ・ノルマン語を媒介にしてその豊かな発展をみせたのであった。

アングロ・ノルマン文学の担い手たちは北フランスの騎士物語や、プロヴァンスの洗練された宮廷恋愛物語の影響をも受け、ケルトの伝説をも用いて英仏海峡の両岸で文学史上に重要な文学作品を創造して行った。彼等の文学は様々な様式にわたっている。アングロ・ノルマン文学は、中世イギリス文学に深い影響を与えただけではなく、フランス文学にも大きな貢献をなしたのである。

注

1. Ruth J. Dean, "Anglo Norman Studies," *The Romanic Review*, XXX (1939), p.3.
2. M. Dominica Legge, *Anglo-Norman Literature and its Background*(Oxford, 1963), pp. 1—2.
3. Paul Studer, *The Study of Anglo-Norman: Inaugural Lecture delivered before the University of Oxford on 6 February 1920* (Oxford, 1920).

4. *An Anglo-Norman Voyage of St. Brendan by Benedeit, a poem of the early twelfth century*, ed. E.G.R. Waters (Oxford, 1928).
5. MSS.
 A : London, British Museum Cotton Vesp. B, X, 1.
 B : Paris, Bibliothèque Nationale, nouv. acq. fr. 4503.
 C : Oxford, Bodleian Library, Rawlinson D, 913.
 D : York, Dean and Chapter Library 16, K.
 E : Paris, Bibliothèque de l'Arsenal 3516.
6. R.L.G. Ritchie "The date of the Voyage of St. Brendan", *Medium Aevum*, XIX (1950), pp. 64—66.
7. *Li Compoz Philipe de Thaün*, mit einer Einleitung, ed. E. Mall (Strassburg, 1873).
8. *Le Bestiaire de Philippe de Thaün*, ed. E. Walberg (Lund, 1900).
9. *Anglo-Norman Lapidaries*, ed. Paul Studer and Joan Evans (Paris, 1924).
10. M. Dominica Legge, "La Précocité de la Littérature anglo-normande," *Cahiers de Civilisation Médiévale*, 8 (Poitiers, 1965), P. 334.
11. *The Anglo-Norman Metrical Chronicle of Geoffrey Gaimar*, ed. Thomas Wright (Caxton Society, 1850; repinted, New York, 1967).
12. *The Historia Regum Britanniae of Geoffrey of Monmouth, with contributions to the study of its place in early British History*, ed. Acton Griscom and Robert Ellis Jones (London, 1929).
13. *Le Roman de Brut de Wace*, ed. Ivor Arnold, 2 vol. (Paris, 1938, 1940), [SATF].
14. *Le Roman de Rou de Wace*, ed. A. J. Holden, 2 vol. (Paris, 1970, 1971).
15. *Chronique des Ducs de Normandie par Benoît, trouvère anglo-normand du XII^e siècle*, publié pour la première fois d'après un manuscrit du Musée Britannique, 3 vol. (Paris, 1936—44).
16. *Chronicles of the Reigns of Stephen, Henry II, and Richard I*, ed. R. Howlett (Rolls Series, 1886).
17. M. Dominica Legge, *op. cit.* (2), p.7.
18. *La Chanson de Roland*, ed. F. Whitehead (9th impression, Oxford, 1970).
19. *Charlemagne, an anglo-norman poem of the twelfth century*, ...ed. Francisque Michel (London-Paris, 1836).
20. *Roland and Vernagu*, Ms. Auchinleck (Nat. Lib. Scotland, 19, 2, 1) : ed. S.J. Herrtage, (Oxford, 1882), [EETS, Ex. 39]
21. *Song of Roland*, Ms. Lansdowne 388 : ed. S. J. Herrtage, (Oxfod, 1879), [EETS, Ex. 35]
22. *Charles the Grete*, Caxton's edition. 1485., ed. S.J. Herrtage, 2pts. (Oxford. 1880). [EETS, Ex. 36, 37]
23. (1) *King Horn, Floris and Blauncheflur*, ed. George H. Mcknight (Oxford, 1901), [EETS, Os. 14]
 (2) *The Romance of Horn by Thomas*, ed. Mildred K. Pope, 2 vol. (Oxford. 1955, 1964) [Anglo-Norman Texts XII-XIII]
24. (1) *Le Lai d'Haveloc and Gaimar's Havelock Episode*, ed. Alexandre Bell (Manchester, 1925).
 (2) *Havelok the Dane*, re-ed. W.W. Skeat (Oxford, 1868), [EETS, Ex. 4]

25. *Richard Coeur de Lyon* : MS. Auchinleck, Caius College, Cbg. 175 : Critical edn. all MSS, based on 6, K. Brunner (Wien, 1913).
26. (1) *Fouke Fitz Warin, roman du XIV^e siècle*, ed. Louis Brandin (Paris, 1930), [CFMA]
 (2) *Fulk Fitzwarine*, ed. T. Wright (Warton Club 1855).
27. *Song of Dermot and the Earl*, ed. G.H. Orpen (Oxford, 1892).
28. (1) *Gui de Warewic, roman du XIII^e siècle*, 2 vol., ed. Alfred Ewert (Paris, 1933), [CFMA]
 (2) *Guy of Warwick, 15th Century Version*, ed. J. Zupitza, Pts. I & II. (Oxford, 1875), [EETS, Ex. 25, 26]
29. (1) *Der Festländische Bueve de Hantone*, ed. A. Stimming (Dresden, 1911).
 (2) *Sir Beves of Hamtoun*, ed. E. Kölbing, Pts I-III. (Oxford, 1855-1894), [EETS, Ex. 46, 48, 65]
30. *Le Roman de Troye, par Benoît de Sainte-Maure, publié d'après tous les mss. connus*, ed. Léopold Constans, 6 vol. (Paris, 1904-1912), [SATF]
31. *Le Roman de Thèbes, édition critique d'après tous les mss. connus*, ed. Léopold Constans, 2 vol. (Paris, 1890), [SATF]
32. (1) *Le Roman de toute chevalerie* : Ms. Cambridge, Trinity College, O, Q, 34.
 (2) *Kyng Alisaunder*, ed. G.V. Smithers (Oxford, 1952, 1957), [EETS, Os. 227, 237]
33. *Li Quatre Livres des Reis. Die Bücher Samuelis und der Könige in einer franz. Bearbeitung des XII. Jahrh.* (Halle, 1911), [Gesellschaft für romanische Literatur, XXVI].
34. (1) *Libri Psalmorum Versio Antiqua Gallica*, ed. Francisque Michel (Oxonii, 1860).
 (2) *Le Livre des Psaumes* (Paris, 1876).
35. *An Anglo-Norman Rhymed Apocalypse with Commentary, from the Giffard MS. formerly in the possession of Sir John Fox and now in the Bodleian*, ed. Olwen Rhys. with a Historical Introduction by Sir John Fox (Oxford, 1946), [Anglo-Norman Texts, VI].
36. cf. M. Dominica Legge, *op. cit.* (2). cf. Johan Vising, *Anglo-Norman Language and Literature* (originally published in 1923, by Oxford University Press, London; first Greenwood Reprinting, 1970).
37. *La Vie de Saint Alexis*, ed. C. Storey (Oxford, 1958).
38. *Le Mystère d'Adam, édition diplomatique accompagnée d'une reproduction photographique du ms. de Tours et des leçons des éditions critiques*, ed. Leif Sletsjøe (Paris, 1968).
39. cf. *Marie de France, Lais*, ed. A. Ewert (Oxford, 1969) Blackwell's French Texts.
Marie de France, Le Lai de Lanval, ed. J. Rychner (Paris, 1958), [TLF]
Bérout, Le Roman de Tristan, ed. E. Muret (Paris, 1970), [CFMA]
Thomas, Les Fragments du Roman de Tristan, ed. B.H. Wind, (Paris 1960) [TLF]
Wace, Le Roman de Brut, cité (13).



SELECT BIBLIOGRAPHY (単行本)

Anglo-Norman England, Language & Literature in General

1. Adams, G.B. : The History of England from Norman Conquest to the Death of John in The Political History of England. Vol. II & III. 1905.
2. Altschul, Michael : Anglo-Norman England, 1066-1154. Compiled by M. Altschul for the Conference on British Studies. London, 1969.
3. Audiau, J. : Les Troubadours et l'Angleterre. Contribution à l'étude des poètes anglais de l'amour au moyen âge, XIII^e et XIV^e siècles. Paris, 1927.
4. Baugh, A.C. : A History of the English Language. New York, 1957.
5. Behrens, D. : Beitrage zur Geshichte der franz. Sprache in England. Heilbronn, 1886.
6. Brunot, F. : Histoire de la Langue française des Origines à 1900. t. I. Paris, 1905.
7. Bérault et Godefroy : Commentaires sur la Coutume de Normandie. t. I & II. Rouen, 1776.
8. Busch, F. : Laut-und Formenlehre der anglonormannische Sprache des XIV. Jhr. Greifswald, 1887.
9. Chaytor, H.J. : The Troubadours and England. Cambridge, 1923.
10. Clover, B. : French Language in England from the Eleventh to the Fourteenth Century. 1888.
11. Craik, G.L. : A Compendious History of English Literature and of the English Language from the Norman Conquest. 1861.
12. Davis, H.W.C. : England under the Normans & Angevins. 1066-1272. London, 1905.
13. Ewert, A. : Studies in Medieval French Presented to Alfred Ewert in Honor of his Seventieth Birthday. Oxford, 1961.
14. Freeman, E.A. : History of the Norman Conquest. 6 vol. 1867-79. (especially Vol. V).
15. Gessler, J. : Fragments d'anciens Traités pour l'Enseignement du français en Angleterre. Paris, 1933.
16. Hill, G. : Some Consequences of the Norman Conquest. 1904.
17. Hoüard : Dictionnaire de la Coutume de Normandie. Rouen, 1782. t. IV. suppl.
18. Hope, T.H. : Lexical Borrowing in the Romance Languages. Vol. II. Oxford, 1971.
19. Jusserand, J. : Histoire littéraire du Peuple anglais. t. I. Paris, 1894.
20. Kuriyagawa, F. : Chuseino Eibungaku to Eigo, Tokyo, 1951.
21. Legge, M.D. : Anglo-Norman in the Cloisters. The Influence of the Orders upon Anglo-Norman Literature. Edinburgh, 1950.
22. _____ : Anglo-Norman Literature & its Background. Oxford, 1963.
23. La Rue, Abbé de : Essais historiques sur les Bardes, les Jongleurs et les Trouvères normands et anglo-normands. Caen, 1834.
24. Laurence de Gruchy, W. : L'ancienne Coutume de Normandie. Jersey, 1881.
25. Mackenzie, F. : Les Relations de l'Angleterre et de la France d'après le Vocabulaire. 2 tomes. paris, 1939.
26. Maejima, G. : Eifutsu Hikaku Bunpo, Tokyo, 1960.
27. Maitland, F.W. : Year Books of Edward II. Vol. I. Selden Society, 1903.
28. Menger, L.E. : The Anglo-Norman Dialect : A Manuel of its Phonology & Morphology

- with Illustrative Specimens of the Literature. Columbia Univ., 1904.
29. Meyer, P. : La Manière de Langage qui enseigne à parler et à écrire le français, modèles de conversations composés en Angleterre à la fin du XIV^e siècle et publ. d'après le ms. du Musée Britanique, Harleian 3988. Paris, 1873.
 30. Mossé F. : Esquisse d'une Histoire de la Langue anglaise. Paris, 1958.
 31. Orr, J. : Old French and Modern English Idiom. Oxford, 1962.
 32. _____ : Studies in Romance Philology and French Literature presented to John Orr by Pupils, Colleagues and Friends. Manchester, 1953.
 33. _____ : Words and Sounds in English & French. Oxford, 1953.
 34. Paris, G. : La Poésie du Moyen age. 1895.
 35. Parry, J.J. & Schlauch, M. : A Bibliography of Critical Arthurian Literature. New York, 1931.
 36. Pope, M.K. : The Anglo-Norman Elements in our Vocabulary: its Significance for our Civilization. Manchester, 1944.
 37. _____ : From Latin to Modern French with Especial Consideration of Anglo-Norman. Manchester, 1934.
 38. _____ : Studies in French Language & Medieval Literature presented to M.K. Pope. Manchester, 1939.
 39. Price, H.T. : Foreign Influence on Middle English. Michigan, 1947.
 40. Prins, A.A. : French Influence in English Phrasing. Leiden, 1952.
 41. Rickard, P. : Britain in Medieval French Literature 1100-1500. Cambridge, 1956.
 42. Scheibner, O. : Über die Herrschaft der französischen Sprache in England. 1880.
 43. Serjeantson, M.S. : A History of Foreign Words in English. London, 1935.
 44. Schofield, W.H. : English Literature from the Norman Conquest to Chaucer. London, 1906.
 45. Studer, P. : The Study of Anglo-Norman. Oxford, 1920
 46. _____ : The Oak Book of Southampton of c.A.D.1300, including Anglo French Ordinances of the Ancient Guild Merchant of Southampton.
 47. Tardif, E.J. : Coutumiers de Normandie. Paris, 1903.
 48. Tanquerey F.J.P. : L'Evolution du Verbe en anglo-français. XII^e-XIV^e siècles. 1915.
 49. _____ : Recueil de Lettres anglo-françaises (1265-1399). Paris, 1916.
 50. Thommerel, J.P. : Recherches sur la Fusion du franconormand et de l'anglosaxon. Paris, 1841.
 51. Vising, J. : Etude sur le Dialecte anglo-normand du XII^e siècle. Upsala, 1882.
 52. _____ : Sur la Versification anglo normande. 1884.
 53. _____ : Anglo Norman Language and Literature. London, 1923.
 54. Walberg, E. : Quelques Aspects de la Littérature anglo-normande. Paris, 1936.
 55. West, C.B. : Courtoisie in Anglo-Norman Literature. Oxford, 1938.
 56. Wilson, R.M. : Early Middle English Literature. London, 1939.
 57. Wright, T. : Popular Treatises of Sciences written during the Middle Ages in Anglo-saxon, Anglo-norman and English. London, 1841.
 58. _____ : Biographia Britannica Literaria. Vol. 2. Anglo-Norman Period. London, 1846.

59. Zachrisson, R.E. : A Contribution to the Study of Anglo-Norman Influence on English Place-Names, 1909.
60. Graham, R.: Studies Presented to Rose Graham. Oxford, 1950.

Authors

- 1) Adgar
 - 1—1 Knust, H. : Geschichte der Legenden der h. Katharine von Alexandrien und der h. Maria Aegyptica. Halle, 1890.
 - 1—2 Neuhaus, C.: Die Quellen zu Adgars Marienlegenden. diss., Erlangen, 1882.
- 2) Benoît de Sainte-Maure
 - 2—1 Andrus, E.B. : A Study of Subjunctive Usage in the "Roman de Troie". diss., Cornell, 1936.
 - 2—2 Constans, L.: Le Roman de Troie, par Benoît de Sainte-Maure, publié d'après tous les manuscrits connus. 6 vol., Paris, 1904-1912.(SATF)
 - 2—3 Fahlin, C. : Etude sur le Manuscrit de Tours de la Chronique des Ducs de Normandie, par Benoît. thèse, Uppsala, 1937.
 - 2—4 Griffin, E.N. : Dares und Dictys, an Introduction to the Study of Medieval Versions of the Story of Troy. diss., John Hopkins Univ.. Baltimore, 1907.
 - 2—5 Joly, A.: Benoît de Sainte-More et le Roman de Troie, ou les Métamorphoses d'Homère et de l'Espopée gréco-latine au Moyen Age. 2 vol., Paris, 1870-71.
 - 2—6 Michel, F.: Chronique des Ducs de Normandie par Benoît, trouvère anglonormand du XII^e siècle, publié pour la première fois d'après un ms. du Musée Britannique. Paris, 1836-44.
 - 2—7 _____: Histoire des Ducs de Normandie et des Rois d'Angleterre, jusqu'en 1220. Paris, 1840.(SHF)
 - 2—8 Richter, H.: Die Verbalformen bei Benoît de Sainte-More. Halle, 1908.
 - 2—9 Stettgast, F.: Benoît de Sainte-More, eine sprachliche Untersuchung über die Identität der Verfasser des "Roman de Troie" und der "Chronique des Ducs de Normandie". Breslau, 1876.
 - 2—10 Witte, R.: Der Einfluss von Benoîts Roman de Troie auf die altfranz. Literatur. diss., Gottingen, 1904.
- 3) Benedeit
 - 3—1 Calmund, H.: Prolegomena zu einer kritischen Ausgabe des ältesten franz. Brandansleben. diss., Bonn. 1902.
 - 3—2 Michel, F.: Les Voyages merveilleux de Saint Brendan. 1878.
 - 3—3 Pfitzner, E.: Das anglonormannische Gedicht von Brendan als Quelle einer lateinischen Prosafassung. diss., Halle, 1910.
 - 3—4 Waters, E.G.R.: The Anglo-Norman Voyage of St. Brendan by Benedeit, a poem of the early twelfth century. Oxford, 1928.
 - 3—5 Wahlund, C. : Die altfranz. Prosaübersetzung von Brendans Meerfahrt. Upsala, 1900.
 - 3—6 Wien, M. : Das Verhältniss der Handschriften der anglonormannischen Brandan Legende. Halle, 1886.

- 4) Beroul
 - 4—1 Ewert, A. : The Romance of Tristan by Beroul, a poem of the twelfth century. Oxford, 1939.
 - 4—2 _____ : The Romance of Tristan by Beroul, I, : Introduction, text, glossary, index. Oxford, 1958.
 - 4—3 Muret, E. : Le Roman de Tristan, poème du XII^e siècle, 3^e éd. revue. Paris, 1913. (CFMA)
- 5) Chardri
 - 5—1 Koch, J. : Chardry's Josaphaz, set Dormanz und Petit Plet. Heilbronn, 1879.
- 6) Clemence of Barking
 - 6—1 MacBain, W. : The Life of St. Catherine. 1964. (ANTS)
- 7) Denis Piramus
 - 7—1 Haxo, H.E. : Denis Piramus, La Vie Seint Edmunt. Chicago, 1915.
 - 7—2 Kjellman, H. : La Vie Seint Edmund le Rei, poème anglo-normand du XII^e siècle par Denis Piramus. Göteborg, 1935.
 - 7—3 Ravenel, F.L. : La Vie Seint Edmund le Rei, an Anglo Norman Poem of the twelfth century by Denis Piramus, Philadelphia, 1906.
- 8) Frère Anger
 - 8—1 Cloran, T. : The Dialogues of Gregory the Great, transl. into Anglo-norman French by Angier. diss., Strasbourg, 1901.
 - 8—2 Luzarche, V. : Vie du pape Grégoire le Grand, Tours, 1857.
 - 8—3 Pope, M.K. : Etude sur la Langue de frère Anger. Paris, 1903.
- 9) Frère Benet
 - 9—1 Brown, P.A. : The Development of the Legend of Thomas Becket. diss., Univ of Pennsylvania, Philadelphia, 1930.
 - 9—2 Schlyter, B. : La Vie de Thomas Becket par Beneit, poème anglo normand du XII^e siècle. Lund-Copenhagen, 1941.
 - 9—3 Walberg, E. : Date et Source de la Vie de Saint Thomas de Cantorbery par Benet, moine de Saint-Alban. Paris, 1918.(CFMA)
 - 9—4 _____ : La Tradition hagiographique de Saint Thomas Becket avant la fin du XII^e siècle. Paris, 1929.
- 10) Guichard de Beaulieu
 - 10—1 Gabrielson, A. : Le Sermon de Guischart de Beaulieu, édition critique d'après tous les mss. connus. Upsal-Leipzig, 1909.
- 11) Guillaume le Clerc
 - 11—1 Martin, E. : Le Besant de Dieu von Guillaume le Clerc de Normandie. Halle, 1869.
 - 11—2 Marquardt, W. : Der Einfluss Kristians von Troyes auf den Roman Fergus des Guillaume le Clerc. diss., Göttingen, 1906.
 - 11—3 Martin, E. : Fergus, Roman von Guillaume le Clerc. Halle, 1872.
 - 11—4 Michel, F. : Le Roman des Aventures de Fregus par Guillaume le Clerc, trouvère du XIII^e siècle. Edinburgh, 1841.
 - 11—5 Rist, P. : Les Joies de Nostre Dame, par Guillaume le Clerc de Normandie. diss., Zürich, 1910.

- 11—6 Reinsch, R. : Le Bestiaire, Das Tierbuch des normannische Dichters Guillaume le Clerc, nach den Hss. von London, Paris und Berlin. Leipzig, 1890.
- 11—7 Seeger, H. : Ueber die Sprache des Guillaume le Clerc de Normandie. diss. :, Halle, 1881.
- 12) Geoffroi Gaimar
 - 12—1 Hardy T. D. & Martin, C.T.: Lestorie des Englés solum la translacion Maistre Geffrei Gaimar. London, 1888-89.
 - 12—2 Rathmann, F. : Die lautliche Gestaltung englischer Personennamen in Geffrei Gaimars Reimchronik "l'Estoire des Engles". diss., Kiel, 1906.
 - 12—3 Wright, T. : l'Estoire de Engleis. London, 1850.
 - 12—4 _____ : The Anglo-Norman Metrical Chronicle of Geoffrey Gaimar. London, 1850.
- 13) Guernes de Pont-Sainte-Maxence
 - 13—1 Walberg, E. : La Vie de Saint Thomas Becket
- 14) Guillaume de Berneville
 - 14—1 Paris, G.& Bos, A. : Vie de Saint Gilles par Guillaume de Berneville, poème du XII^e siècle publ. d'après le ms. unique de Florence. 1881.(SATF)
 - 14—2 Jones, E.C. : Saint Gille, essai d'histoire littéraire. Paris, 1914.
- 15) Henri de Lancastre
 - 15—1 Arnould, E.J.F. : Etude sur le "Livre des saintes Médecines" du Duc Henri de Lancastre, accompagnée d'extraits de texte. Paris, 1948.
 - 15—2 _____ : Henry of Lancaster, Le Livre des saintes Médecines. Oxford, 1940.
- 16) Hue de Rotelande
 - 16—1 Bönigk, F. : Literarhistorische Untersuchungen zum Protheselaus. diss., Greifswald, 1909.
 - 16—2 Hahn, W. : Der Wortschatz des Dichters Hue de Rotelande. Greifswald, 1910.
 - 16—3 Kluckow, F. : Hue de Rotelande, Protheselaus. Göttingen-Halle, 1924.
 - 16—4 _____ : Sprachliche und textkritische Studien ueber Hue de Rotelande Prothesilaus nebst einem Abdruck der ersten 1009 Verse. diss., Greifswald, 1909.
 - 16—5 Kölbing, E.& Koschwitz, E. : Hue de Rotelande, Ipomedon. Breslau, 1889.
- 17) Jordan Fantosme
 - 17—1 Michel, F. : Jordan Fantosme, Chronicle of the War between the English and the Scots in 1173 and 1174, published with a translation, an introduction, notes, an appendix. Paris, 1840.
- 18) John Gower
 - 18—1 Fowler, R.E. : Une Source française des Poèmes de Gower. Paris, 1905.
 - 18—2 Macaulay, G.C. ed.: The Complete Works of John Gower, French Works. 4 vols., Oxford, 1899-1902.
 - 18—3 Stengel, E. : Gowers Minnesang und Ehezuchtbuchlein. Marburg, 1886.
 - 18—4 Tanneberger, A. : Sprachliche Untersuchung der franz. Werke John Gowers. Leipzig, 1810.

- 19) Marie de France
 - 19—1 Ewert, A.: Marie de France, Lais. Oxford, 1944.
 - 19—2 Harris, J.: Marie de France, The lays Guigemar, Lanval and a fragment of Yonec with a study of the life and work of the author. New York, 1930.
 - 19—3 Höpffner, E.: Marie de France, Les Lais. Strassburg, 1921.
 - 19—4 Jenkins, T.A.: L'Epurgatoire Saint Patriz of Marie de France, an old French poem of the twelfth century, published with an introduction and a study of the language of the author. diss., Philadelphia, 1894.
 - 19—5 Levi, E.: Maria di Francia, Eliduc, con versione, introduzione e commento. Firenze, 1924.
 - 19—6 Roquefort, B. de: Poésies de Marie de France, poète anglo-normand du XIII^e siècle publ. avec traduction. 2 tomes., Paris, 1819-20.
 - 19—7 Rychner, J.: Les Lais de Marie de France. Paris, 1966. (CFMA)
 - 19—8 Schiödt, E.: L'Amour et les Amoureux dans les Lais de Marie de France. Lund, 1889.
 - 19—9 Warnke, K.: Die Lais der Marie de France. 3rd ed. Halle, 1925.
 - 19—10 ———: Vier Lais der Marie de France, mit Einleitung und Glossar. Halle, 1925.
 - 19—11 ———: Das Buch vom Espurgatoire St. Patrice der Marie de France und seine Quelle. Halle, 1938.
- 20) Matthew Paris
 - 20—1 Atkinson, R.: Vie de Saint Auban, a Poem in Norman French ascribed to Matthew Paris, now for the first time edited from a ms. in the library of Trinity College. Dublin-London, 1876.
 - 20—2 James, M.R.: Illustrations to the Life of St. Alban. Oxford, 1924.
 - 20—3 Suchier, H.: Fragment contenu dans le ms. d' Oxford Bodl. Digby 34. Über die Matthaeus Paris zugeschriebene Vie de Saint Auban. Halle, 1876.
- 21) Nicolas Bozon
 - 21—1 Harry, P. W.: A Comparative Study of the Aesopic Fable in Nicolas Bozon. Cincinnati, 1905,
 - 21—2 Héron A.: La Règle de saint Benoît traduite en vers français par Nicole. Rouen, 1895.
 - 21—3 Meyer, P. et Smith L. T.: Les contes moralisés de Nicole Bozon. Paris, 1889.
 - 21—4 Roche, C.: Débat de l'Ame et du Corps. publ. d'après un ms. du XIV^e siècle, 1908.
 - 21—5 Tanquerey, F. J.: Plaintes de la Vierge en anglo-français, XIII^e et XIV^e siècles. Paris, 1921.
 - 21—6 Vising, J.: Deux Poèmes de Nicolas Bozon: le Char d'Orgueil; La Lettre de L'Empereur Orgueil. Göteborg, 1919.
- 23) Nicholas Trevet
 - 22—1 Dean, R.J.: The Life and Works of Nicholas Trevet. unpublished thesis. Oxford, 1938.
 - 22—2 Hog, T.: Annales Sex Regum Angliae. 1845. (EHS)
 - 22—3 Rutherford, A.: The Anglo-Norman Chronicle of Nicholas Trevet, unpublished

- thesis. London, 1932.
- 23) Philippe de Thaon
- 23—1 Mall, E. : *Li Cumpoz Philipe de Thaün*, mit einer Einleitung. Strassburg, 1873.
- 23—2 Walberg, E. : *Le Bestiaire de Philippe de Thaün*, texte critique, publié avec une introduction, notes et glossaire. Lund, 1900.
- 23—3 ——— : *Etude sur la Langue du Ms. anc. fonds royal 3466 de la Bibl. de Copenhague*. Lund, 1902.
- 24) Pierre d'Abernum of Fetcham
- 24—1 Beckerlegge, O.A. : *Le Secré des Secrez*. Oxford, 1944. (ANTS)
- 24—2 Steele, R. : *Three Prose Versions of the Secreta Secretorum*. London, 1898. (EETS, Ex.)
- 25) Pierre de Langtofts
- 25—1 Tischbein, W. : *Über Verfasser und Quellen des zweiten Teiles der altfranz. Reimchronik Peter Langtofts*. diss., Göttingen, 1913.
- 25—2 Wright, T. : *Edition des deux textes, Chronicle of Pierre de Langtofts*. 1866-68.
- 26) Robert Biket
- 26—1 Dörner, H. : *Robert Biket's Lai de Cor*. diss., Strassburg, 1907.
- 26—2 Wulff, F. : *Le lai du Cor, restitution critique*. Lund, 1888.
- 27) Robert de Gretham
- 27—1 Aitken, M.Y.H. : *Etude sur le Miroir ou les Evangiles des Domnées de Robert de Gretham suivie d'extraits inédits*. diss., Paris, 1922.
- 28) Robert Grosseteste
- 28—1 Murray, J. : *Robert Grosseteste, Le Château d'Amour, évêque de Lincoln*. thèse, Paris 1918.
- 28—2 Thomson, S.H. : *The Writings of Robert Grosseteste, Bishop of Lincoln 1235—1253*. Cambridge, 1940.
- 29) Robert de Ho
- 29—1 Young, M.V. : *Les Enseignements de Robert de Ho*. Paris, 1901.
- 30) Samson de Nanteuil
- 30—1 Hilgers, S. : *Der Lautstand in den Proverbia Salomonis von Samson von Nanteuil*. diss., Halle, 1910.
- 30—2 Hilgers, H. : *Die Wortstellung in Samson von Nanteuils altfrz. Bearbeitung der Proverbia Salomonis*. Halle, 1910.
- 30—3 Le Compte, I.C. : *The Sources of the Anglo-French Commentary on the Proverbs of Salomon contained in ms. 24862 fds. fr. of the Bibl. Nat. of Paris*. diss., Strassbourg, 1906.
- 31) Simund de Freine
- 31—1 Matzke, J.E. : *Les Oeuvres de Simund de Freine*. 1909. (SATF)
- 31—2 Nabert, A. : *Passion of St. George*. Greifswald, 1915.
- 32) Thomas
- 32—1 Deutschbein, M. : *Studien zur Sagengeschichte Englands*. Cöthen, 1906.
- 32—2 Hartenstein, O. : *Studien zur Hornsage*. Heidelberg, 1902.
- 32—3 Michel .F. : *Horn et Rimenhild en français, en anglais et en écossais*. Paris,

- 1845.
- 32—4 Pope, M.K. : The Romance of Horn. Vol. I. 1955. (ANTS)
- 32—5 Reid, T.B.W. rev. : The Romance of Horn. 1964. (ANTS)
- 33) Thomas
- 33—1 Bédier, J. : Le Roman de Tristan par Thomas. 2 vol. Paris, 1902—5. (SATF)
- 33—2 Michel, F. : Tristan, Recueil de ce qui reste de Poèmes relatifs à ses Aventures composés en français, en anglo-normand et en grec, dans les XII^e et XIII^e siècles. 3 vol., Londres, 1835—38.
- 33—3 Röttiger, W. : Der Tristan des Thomas, ein Beitrag zur Kritik und Sprache desselben. diss., Göttingen, 1822.
- 33—4 Wind, B.H. : Les Fragments du Tristan de Thomas. Leiden, 1950.
- 34) Thomas Gary
- 34—1 Stevenson, J. : Scalacronica, Maitland Club, 1836.
- 35) Thomas of Kent
- 35—1 Hildenbrand, T. : Die altfranz. Alexanderdichtung, le Roman de toute Chevalerie des Thomas von Kent und die mittelenglische Romanze Kyng Alisaunder in ihrem Verhältnis zu einander. diss., Bonn, 1911.
- 35—2 Weynand, J. : Der Roman de toute Chevalerie des Thomas de Kent in seinem Verhältnis zu seinen Quellen. diss., Bonn, 1911.
- 35—3 Wolff, R. : Der interpolierte Fierre de Gades in Alexanderroman des Thomas von Kent. diss., Bonn. 1914.
- 36) Twiti
- 36—1 Tilander, G. : La Venérie de Twiti, Uppsala, 1956.
- 37) Wace
- 37—1 Arnold, I. : Le Roman de Brut de Wace. 2 vol. 1938—40. (SATF)
- 37—2 Ashford, W.R. : La Conception Nostre Dame. Chicago, 1933.
- 37—3 Andresen, H. : Maistre Wace's Roman de Rou et des Ducs de Normandie. 2 vol., Heilbronn, 1877—79.
- 37—4 Carpenter, B.F. : The Life and Writings of Maistre Wace diss., Univ. of North Carolina. 1930. (typescript)
- 37—5 Francis, E.A. : Wace, La Vie de Sainte Marguerite. Paris, 1932. (CFMA)
- 37—6 Hopkins, A.B. : The Influence of Wace on the Arthurian Romances of Crestien de Troyes. diss., Menasha, 1913.
- 37—7 Houck, M. : Sources of the Roman de Brut of Wace. diss., Berkeley. 1941.
- 37—8 Inkemann, F. : Das Verhältnis des "Nouveau Testament" von Geoffroi de Paris zu der Conception Nostre Dame von Wace, zu der Handschrift Add. 15606 des Brit. Mus. und zu der Hamilton Handschrift N. 273 des Fitz William Museums zu Cambridge. diss., Greifswald, 1908.
- 37—9 Keller, H.E. : Etude descriptive du Vocabulaire de Wace. Berlin, 1952.
- 37—10 Keller, W.L. : Maistre Wace, eine stylistische Untersuchung seiner beiden Romane Rou und Brut. St.-Gall, 1886.
- 37—11 Körting, G. : Über die Quellen des Roman de Rou. diss., Leipzig, 1867.
- 37—12 Luzarche, V. : La Vie de la Vierge Marie de Maistre Wace, suivie de la Vie

- de saint Georges du même trouvère. Tours, 1858.
- 37—13 Pantel, A. : Das altfranz. Gedicht über die Himmelfahrt Maria von Wace und dessen Überarbeitungen. diss., Greifswald, 1919.
- 37—14 Pelan, M. : L'Influence de Brut de Wace sur les romans français de son temps. Paris, 1931.
- 37—15 Philpot, J.H. : Maistre Wace, a Pioneer in two Literatures. London, 1925.
- 37—16 Ronsin, E. : La Vie de saint Nicolas par Wace, poème religieux du XII^e siècle, publié d'après tous les manuscrits. Lund. 1942.
- 37—17 Schneider, O. : Die Verbalform bei Wace. Halle, 1909.
- 37—18 Spencer F. : La Vie de sainte Marguerite, An Anglo-Norman version of the XIIIth century now first ed. from the unique ms. in the Univ. Library at Cambridge. Leipzig, 1889.
- 37—19 Ulbrich, A. : Über das Verhältnis von Wace's Roman de Brut zu seiner Quelle, der "Historia Regum Britanniae" des Gottfried von Monmouth. diss., Leipzig, 1908.
- 37—20 Underwood, V.S. : An Anglo-Norman Metrical Brut of the XIVth century. London, 1937.
- 37—21 Waldner, L. : Wace's Brut und seine Quellen. Karlsruhe, 1914.
- 37—22 Zetsche, A.W. : Über den I. Teil der Bearbeitung des "Roman de Brut" des Wace durch Robert Mannyng of Brunne. diss., Leipzig 1887.
- 38) Walter of Henley
- 38—1 Lamond, E. : Walter of Henley, Husbandry together with an anonymous husbandry, senechaucie and Robert Grosseteste's rules. London, 1890.
- 39) William de Wadington
- 39—1 Arnould, E.J. : Le Manuel des Péchés. Etude de Littérature religieuse anglo-normande, XIII^e siècle. Paris, 1940.
- 39—2 Furnivall, F.J. : Robert Mannyng of Brunne's Handlyng Synne, a. d. 1303 with those parts of the Anglo-French treatise on which was founded Willam of Wadington's Manuel de pechiez, reedited from mss. in the Brit. Mus. and Bodleian Libraries. 2 vol., London, 1901-3. (EETS, Os. 119, -123.)
- 39—3 Kunz, A. : Robert Manning of Brunne's Handlyng Synne verglichen mit der anglo-normannischen Vorlage, Willam of Waddingtons Manuel des Pechiez. diss., Königsberg, 1913.

Personages

- 1) Adam
- 1—1 Aebischer, P. : Le Mystère d'Adam. Genève-Paris, 1963. (TLF)
- 1—2 Grass, K. : Das Adamspiel, anglonormannisches Mysterium des XII. Jahrhunderts. Halle, 1928.
- 1—3 Sletsjõe, L. : Le Mystère d'Adam, éd. diplomatique accompagnée d'une reproduction photographique du ms. Tours et des leçons des éd. critiques, Paris, 1968.
- 1—4 Stone, E.W. : Adam, a religious play of the twelfth century, translated from

- the Norman-French and Latin into English verse. Seattle, 1926.
- 1—5 Studer, P.: *Le Mystère d Adam, An Anglo-Norman Drama of the twelfth century*. Manchester 1918.
- 2) *Amadas et Ydoine*
- 2—1 Reinhard, J.R. : *Amadas et Ydoine (ca.1220)*. Paris, 1926. (CFMA)
- 2—2 ——— : *The Old French Romance of Amadas et Ydoine, an historical study*. Durham, 1927,
- 3) *Amis e Amilun*
- 3—1 Koelbing, E.: *Amis and Amiloun zugleich mit der altfranz. Quellen*. Heilbronn, 1884.
- 3—2 Schwieger, P. : *Die Sage von Amis und Amiles*. Berlin, 1885.
- 4) *Black Prince*
- 4—1 Pope, M.K. & Lodge, E.C. : *The Black Prince*. Oxford, 1910.
- 5) *Bueve de Hantone*
- 5—1 Behrens, L. : *Ort und Zeit der Entstehung der Fassung I des festländischen Bueve de Hantone*. diss., Göttingen, 1913.
- 5—2 Boje, C.: *Die Überlieferung des altfranz. Romans von Beuve de Hamtone*. diss., Kiel, 1908.
- 5—3 Kölbing, E. : *The Romance of Sir Beues of Hamtoun*. 3 vol. London, 1885-1894.
- 5—4 Öckel, F.: *Ort und Zeit der Entstehung der Fassung II des festländischen Boeve von Hantone*. diss., Göttingen, 1912.
- 5—5 Sander, G. : *Die Fassung I des festländischen Bueve de Hantone*. diss., Göttingen, 1912.
- 5—6 Stimming, A.: *Der anglo-normannische Boeve de Hauntone*. Halle, 1899. (Bibliotheca Normannica VII)
- 5—7 Wolf, A. : *Das gegenseitige Verhältnis der gereimten Fassungen des festländischen Bueve de Hantone*. diss., Göttingen, 1912.
- 6) *Charlemagne*
- 6—1 Michel, F. : *Charlemagne, an Anglo-Norman Poem of XIIth Century*. London, 1836.
- 7) *Dermot*
- 7—1 Orpen, G.H. : *King of Dermot and the Earl*. Oxford, 1892.
- 8) *Desiré*
- 8—1 Grimes, M.: *The Lays of Desiré*. New York, 1928.
- 9) *Edward the Confessor*
- 9—1 Södergard, Ö. : *La Vie d'Edouard le Confesseur, poème anglo-normannand du XII^e siècle*. Uppsala, 1948.
- 10) *Fulk Fitz Warin*
- 10—1 Brandin, L. : *Fouke Fitz Warin, roman du XII^e siècle*. Paris, 1930. (CFMA)
- 10—2 Jordan, L. : *Das Volksbuch von Fulk Fitz Warin, Deutsch von Leo Jordan*. Leipzig, 1906.
- 10—3 Kemp-Welch, A. : *The History of Fulk Fitz-Warine, with an introduction by L. Brandin*. London, 1904.

- 10—4 Wright, T.: The History of Fulk Fitz Warine an outlawed Baron in the reign of King John, edited from a ms. preserved in the British Museum, with an English translation and explanatory and illustrative notes. London, 1855.
- 11) Gui de Warwick
 - 11—1 Ewert, A.: Gui de Warewic, roman du XIII^e siècle. 2 vol., Paris, 1933. (CFMA)
 - 11—2 Man, P.: Gydo und Thyrsus, ein deutsche Ausländer des altfranz. mittlengl. Freundschaftsroman Guy von Warwick. Jena, 1909.
 - 11—3 Tanner, A.: Die Sage von Guy von Warwick. diss., Heidelberg-Bonn, 1877.
 - 11—4 Weyrauch, M.: Die mittlenglischen Fassungen du Sage von Guy of Warwick u. ihre Vorlage. diss., Breslau, 1899.
 - 11—5 Winneberger, O.: Über das Hs.-Verhältnis des altfranz. Guy de Warwick. diss. Marburg, 1889.
- 12) Guillaume le Maréchal
 - 12—1 Meyer, P.: Histoire de Guillaume le Maréchal. Paris, 1891-1901.
- 13) Haveloc
 - 13—1 Bell, A.: Le Lai d'Haveloc and Gaimar's Haveloc Episode. Manchester, 1925.
 - 13—2 Michel, F.: Lais d'Havelock le Danois. Paris, 1833.
- 14) Henry II
 - 14—1 Michel, F.: Anglo Norman Poem on the Conquest of Ireland by Henry the Second. 1837.
- 15) Hugues de Lincoln
 - 15—1 Michel, F.: Hugues de Lincoln, recueil de ballades anglo-normandes et écossaises relatives au meurtre de cet enfant. Paris, 1834.
- 16) Richard I, Coeur de Lion
 - 16—1 Johnston, R.C.: The Crusade & Death of Richard. Oxford, 1961.
 - 16—2 Meyer, P.: Richard Coeur-de-Lion et Philippe Auguste en 1199 d'après l'Histoire de Guillaume le Maréchal, comte de Pembroke. 1882.
- 17) Roland
 - 17—1 Bédier, J.: La Chanson de Roland, publiée d'après le manuscrit d'Oxford et traduite. Paris, 1922.
 - 17—2 Bertoni, G.: La Chanson de Roland, introduzione, versione, note, glossario. Firenze, 1936.
 - 17—3 Gautier, L.: La Chanson de Roland, texte critique accompagné d'une traduction nouvelle et précédée d'une introduction historique. 2 vol. Tours, 1872.
 - 17—4 Hilka, A.: Das altfranz. Rolandslied nach der Oxforder Hss. Halle, 1926.
 - 17—5 Jenkins, T.A.: La Chanson de Roland, Oxford version, revised ed. Boston, 1924.
 - 17—6 Samaran, C.: La Chanson de Roland, reproduction phototypique du Digby 23 de le Bodleian Library d' Oxford, éditée avec un avant-propos par le comte Alexandre de Laborde, étude historique et paléographique. Paris, 1933. (SATF)
 - 17—7 Stengel, E.: Das altfz. Rolandslied, kritische Ausgabe, Vol. I. Leipzig, 1900.
- 18) St. Alexis
 - 18—1 Dédeck-Héry, V.L.: The Life of Saint Alexis, an old French poem of the leventh century. New York, 1931.

- 18—2 Meunier, J.M.: La Vie de Saint Alexis. Paris, 1933.
- 18—3 Paris, G.: La Vie de Saint Alexis, poème du XI^e siècle, texte critique avec un lexique complet et une table des assonances. Paris, 1911.
- 18—4 Paris, G. & Pannier, L.: La Vie de Saint Alexis, poème du XI^e siècle et renouvellements des XII^e, XIII^e et XIV^e siècles. Paris, 1872.
- 18—5 Rösler, M.: Sankt Alexius, altfranz. Legendendichtung des XI. Jahrhunderts. Halle, 1928.
- 18—6 Storey, C.: Etude de la Langue du Manuscrit de Hildesheim suivie d'une édition critique du texte d'après le manuscrit L, avec commentaire et glossaire. Paris, 1934.
- 19) St. Audrey
- 19—1 Sodergara, O.: La Vie Sainte Audrée. Uppsala, 1955.
- 20) St. Julien
- 20—1 Bonjour, A.: Dialogue de saint Julien et de son Disciple, poème anglo-normand du XIII^e siècle. Oxford, 1949. (ANTS)
- 21) St. Laurent
- 21—1 Söderhjelm, W.: De saint Laurent, poème anglo-normand du XII^e siècle, publ. pour la première fois d'après le ms. unique de Paris, Paris, 1888.
- 22) St. Modwenna
- 22—1 Baker, T. & Bell, A.: St. Modwenna. 1947. (ANTS)
- 23) St. Patrick
- 23—1 Krappe, G.P.: The Legend of Saint Patriks' Purgatory. diss., John Hopkins. Baltimore, 1900.
- 23—2 Leslie, S.: Saint Patrick's Purgatory, a record from history and literature. London, 1932.
- 23—3 Morner, M.: Le Purgatoire de Saint Patrice, par Berol. Lund, 1917.
- 23—4 Van den Zanden, C.M.: Etude sur le Purgatoire de Saint Patrice, accompagnée du texte latin d'Utrecht et du texte anglo normand de Cambridge. Amsterdam, 1927.
- 23—5 Vising, J.: Le Purgatoire de Saint Patrice des mss. Harleien 273 et Fonds Français 2198 publ. pour la première fois. Gtöeborg-Zachrisson, 1916.
- 24) Ste. Marguerite
- 24—1 Spencer, F.: La Vie de Sainte Marguerite, an Anglo-Norman version of the XIIth century now first ed. from the unique ms. in the Univ. Library at Cambridge. Leipzig, 1889.
- 25) Tondale
- 25—1 Friedel, V.H. & Meyer, K.: La Vision de Tondale (Tnudgal), textes français, anglo-normand et irlandais. Paris, 1907.
- 25—2 Mussafia, A.: Sulla visione di Tundalo. Wien 1871.
- 26) Tristan
- 26—1 Curdy, A. E.: La Folie, Tristan, an Anglo-norman Poem. Baltimore, 1903.
- 26—2 Höpffner, E.: La Folie Tristan d'Oxford, publ. avec commentaire, Paris, 1963.

V A R I A

- 1) Courtesy and Nurture
 - 1—1 Parsons, H.R. : Anglo-Norman Books of Courtesy and Nurture, 1929.
- 2) Lapidary
 - 2—1 Studer, P. d Evans, J. : Anglo-Norman Lapidaries. Paris, 1924.
- 3) Laws of William The Conqueror
 - 3—1 Matzke, J.E. : Lois de Guillaume le Conquérant en Français et en Latin. Textes et Etude critique, avec une préface historique par C. Bémont. Paris, 1899.
- 4) Lyric
 - 4—1 Gessler, J. : Manière de Langage. Brussels-Paris, 1934.
 - 4—2 Meyer, P. : Recueil d'anciens Textes. Paris, 1877.
 - 4—3 Oulmont, C. La Geste de Blanchefleur et de Florence and Meliore Ydoine. Paris, 1911.
 - 4—4 Wright, T. : Specimens of Lyric Poetry. Percy Society, 1842.
- 5) Plaintes de la Vierge
 - 5—1 Tanqueray, F.J. : Plaintes de la Vierge en Anglo-Français. Paris, 1921.
- 6) Psalter
 - 6—1 Fichte, E. : Die Flexion im Cambridger Psalter. Halle, 1879.
 - 6—2 Gödicke, W. : Über anglonormannischen Schweifreimpsalter. diss., Halle, 1910.
 - 6—3 Meister, J.H. : Die Flexion im Oxforder Psalter. Halle, 1877.
 - 6—4 Michel, F. : Libri Psalmorum Versio Antiqua Gallica. Oxford, 1860.
 - 6—5 _____ : Le Livre de Psaumes. Paris, 1876.
 - 6—6 Schumann, W. : Vokalismus und Konsonantismus des Cambridger Psalters. Heilbronn, 1883.
- 7) Quatre Livres des Reis
 - 7—1 Curtius, E.R. : Einleitung, zu einer neuen Ausgabe der "Quatre Livres des Reis". diss., Strassburg, 1911.
 - 7—2 Le Roux de Lincy : Les Quatre Livres des Reis. Paris, 1841.
 - 7—3 Merwart, K. : Die Verbalflexion in den "Quatre Livres des Rois." Wien, 1880.
 - 7—4 Plähn, R. : Les Quatre Livres des Reis. diss., Göttingen, 1888.
 - 7—5 Schlösser, P. : Die Lautverhältnisse der "Quatre Livres des Rois." diss., Bonn, 1886.
 - 7—6 Wartels, W. : Wortstellung in den "Quatre Livres des Rois." Hannover, 1886.
- 8) Vitas Patrum
 - 8—1 O'Conner, A.O. : Vitas Patrum. Washington, 1949.

Cambridge Anglo-Norman Texts : Cambridge, 1924.

1. Divisiones Mundi, ed. by Prior, O. H.
2. Poem on the Assumption, ed. by Strachey, J. P.
3. Poem on the Day of Judgment, ed. by Chaytor, H. J.

Anglo-Norman Text Society

1. *La Petite Philosophie*, ed. with introd., notes and gloss. by W. H. Trethewey, 1939 (1967).
2. *Le Livre de Seyntz Medicines*, the unpublished devotional treatise of Henry of Lancaster, ed. by E. J. Arnould, 1940 (1967).
3. *Anglo-Norman Letters and Petitions from All Souls MS. 182*, ed. by M.D. Legge, 1941 (1967).
4. *La Seinte Resurreccion* from the Paris and Canterbury MSS., ed. begun by T. A. Jenkins and J. M. Manly and completed by M. K. Pope and J. G. Wright, 1943 (1967).
5. *D'Abernun of Fetcham (Pierre), Le Secr  de Secrez* from the unique MS. B.N. f.fr. 25407, ed. by O.A. Beckerlegge, 1944 (1967).
6. *An Anglo-Norman Rhymed Apocalypse with Commenary* from the Giffard MS. formerly in the possession of Sir John Fox and now in the Bodleian, ed. by O. Rhys with a historical introd. by Sir J. Fox, 1946 (1967).
7. *St. Modwenna*, ed. begun by A.T. Baker and completed by A. Bell, 1947 (1967).
8. *Dialogue de Saint Julien et son disciple*, po me anglo-normand du XIII^e si cle, ed. by A. Bonjour, 1949 (1967).
- 9—10. *Thomas, The Romance of Horn*, ed. by M.K. Pope, Vol. 1 : Text, critical introd. and notes, 1955.
11. *Anglo-Norman Political Songs*, ed. by I.S.T. Aspin, 1953.
- 12—13. *Thomas, The Romance of Horn*, Vol. 2 : Descriptive introduction, explicatory notes and gloss., rev. and completed by T.B.W. Reid, 1964.
- 14—16. *Geffrei Gaimar, L'Etoire des Engleis*, ed. by A. Bell, 1960.
17. *Crusade and Death of Richard I*, ed. by R.C. Johnston, 1961.
18. *Clemence of Barking, The Life of St. Catherine*, ed. by W. MacBain, 1964.
19. *La Vie de Seint Auban*, an Anglo-Norman Poem of the XIIIth Century, ed. by A.R. Harden, 1968.
20. *Chardri. Le Petit Plet*, ed. by B.S. Merrilees, 1969.

Bibliotheca Normannica

1. *Reimpredigt*, herausgegeben von Hermann Suchier. 1879,
3. *Marie de France, Die Lais*, herausgegeben von Karl Warnke, mit vergleichenden Anmerkungen von Reinhold K hler, nebst Erg nzungen von Joannes Bolte und einem Anhang "Der Lai von Guingamor" herausgegeben von Peter Kusel. 3. verbesserte Auflage. 1925.
6. *Marie de France, Fabeln*, mit Benutzung des von Ed. Mall hinterlassenen Materials herausgegeben von Karl Warnke. 1898.
7. *Der anglonormannische Boeve de Haumtone* zum ersten male herausgegeben von Albert Stimming. 1899.

8. La Chançon de Guillelme, Französisches Volksepos des XI. Jahrhunderts, kritisch herausgegeben von Hermann Suchier. 1911.
9. Marie de France, Das Buch vom Espurgatoire S. Patrice der Marie de France und seine Quelle, herausgegeben von Karl Warnke. 1938.